

お年寄りがボケると、まさかと思うことがよく起きます。

例えば、それまで温厚な紳士だった人が、ボケた日を境に、突然怒りっぽくなり、人を罵倒し、挙句の果てに妻に暴力を振るったりするケースも見受けま

す。こうなったら家族は大変です。それまで家庭の中で一度も見たことのない光景が展開されるのですから、家族のショックはたとえようありません。これは、必ずしも男性ばかりとは限りません。

それまで従順でおとなしかった女性がボケて、物を投げたり、かみついたりします。

私の病院でも、こうしたことはよくあります。

患者さんがあまりにも大声でヘルパーを威嚇したりするので、「お父さんは、昔からこうでしたか」と家族に聞くと、「とても優しい人でした」と言われることも少なくありません。

これは、ボケたことによつて

「人格」が変わってしまったのです。つまり、ボケて別人になってしまったと考えた方が分かりやすいかもしれません。

これがボケの怖いところです。自分をコントロールする能力が全く失われてしまったのです。

実は、これもボケの随伴症状の一つで、こうした症状に陥ってしまうと、介護する側に苦痛が生まれ、介護が非常に困難になってきます。

ただし、こうした場合でも、環境や対応を変えることによつて、暴力が収まる場合もありますから、医師によく相談してみてください。

「ごはん、まだかね」
「さつき食べたばかりでしょ」「おや、そうだったかね」という

単なる記憶障害によるボケの基本的症状が、いかにかわいらしいものか、お分かりでしょう。



高齢者の体シリーズ⑩

「転んで動けな〜い!」

副院長

八鍬秀之

高齢になると、転倒・転落の危険性が非常に高くなります。下半身の筋力の低下や、反射神経の低下、視力の低下などが原因となります。筋力が低下すると転倒の危険性が4倍以上高くなると言われています。また高齢者では家庭外と家庭内の転倒はほぼ同じ割合で、家庭内での転倒が目立ちます。家庭内での不慮の事故で救急車を要請した65歳以上の高齢者の約70%が転倒が原因でした。

高齢者は骨折を起こしやすく、転倒した場合、約40%で骨折が起これという報告もあります。骨折は上半身よりも大腿骨などの下半身に多いのも高齢者の特徴です。特に大腿骨頸部骨折(太ももの付け根の骨折)は転倒しただけで簡単に起きてしまいます。この骨折は歩く能力が回復するまでに時間がかかり、筋力の低下から、寝たきり状態になってしまう可能性が非常に高い骨折です。

転倒・骨折は寝たきりの第2位の原因といわれています。そのため転倒の予防が大切になります。

まず転ばないための体づくりが大切です。これは特別なトレーニングやスポーツを意味するものではありません。無理なく普段から歩くことを心がけることです。また、こまめに体を動かすことです。こたつに入つてのテレビ観戦はよろしくありません。

次に、転ばないための住まいづくりです。まず足に引掛かたり、つま先易いものを整理整頓しましょう。また家の中のちよつとした段差をなくしたり、目印をつけましょう。

照明も明るくしましょう。滑りやすい場所を滑りにくくする工夫(床の材質、滑り止め靴下・靴など)

も大切です。可能ならば手すりをつけるのも予防になります。

